

# 月刊シニアビジネスマーケット

超高齢社会のライフスタイルをデベロップする経営情報誌

SENIOR BUSINESS MARKET

2009  
September  
no.062

09

【特集】

## シニア住宅の 商品力アップ戦略

「食」「ライフサポート」「安心」で差別化図れ



# 「百寿時代」の生きがいづくり、ケア付き旅行で好成果、トラベルヘルパー育成・組織化で進展

（株）エスピーアイ「あ・える倶楽部」

100歳を超える日本人の数は、1989年（平成元年）には3000人ほどであったが、約20年後の07年10月（平成19年）現在では約3万7000人に迫る勢いをみせている。まさに「百寿時代」（あ・える倶楽部）に突入し、長寿者はまだまだ増える一方だが、人間、いくつになっても旅行には行きたいもの。「寝たきりになつた人でも、一番の望みは旅行といわれます」と、（株）エスピーアイ（以下、SPI）の代表取締役篠塚恭一氏。その旅行に介護が必要になつたら、病気になる人でも行ける、となつたら、その人の喜びは誇張ではなく、まさに「天まで昇る心地」であろう。こうした高齢者の旅行を通じた「生きがいづくり」を演出しているのが、「SPIあ・える倶楽部」だ。

## 要介護者、要医療者の「旅行に行きたい」ニーズに積極対応

SPIは、1991年に設立（01年に現社名に変更）され、今年で創業18年を迎えた。100歳人口が今の10分の1のころであり、隔世の感があるだろう。この事業をはじめたきっかけは、「旅行社

ルパー育成と介護旅行システムの全国整備、旅のユニバーサルデザイン化などに努めている。

篠塚氏によると、トラベルヘルパーは、①旅行に同行、ケアサービスを提供する人、②介護・旅行の専門知識を駆使し、要介護旅行者の希望などに即して予約・手配をする人、③旅行前に計画を作成する旅行者をサポートしたり、旅行後のアルバムづくりなどをフォローする人に分けられるという。とくに③は高齢者の脳の活性化や脳トレーニング（回想法など）に効果があるとされ、認知症予防にも大きな期待が寄せられているという。

このようなさまざまな「介護旅行」の活動全体を統括・運営し、推進役となっているのが「SPIあ・える倶楽部」だ。キーワードは、安心介護、旅のプロ、家族休暇、脳を活性、健康長寿などで、この事業を「健康長寿社会の実現に向けた生きがい事業」と位置づけている。

有料老人ホーム事業者との連携については、（株）ニチイ学館、東京海上日動サミユエル（株）、（株）レオパレス21など多数にのぼる。とくに有料老人ホームや通所介護運営の「あずみ苑」ブランドで知られるレオパレス21（シルバー事業本部）とは、今年2月、介護予防・認知症予防と旅行プログラムを加えたサービスをスタートさせている。首都圏で17か所・619室の有料老人ホームを展開（本誌9月号・主

に勤務していたころ、あるおばあちゃんが自分で自分の荷物が持てなくなつたら、大好きな旅行はやめます、と言うので、「いえ、おいくつになつても私がお供して荷物をお持ちします」と答えたことでしょうか」と、篠塚氏。「その方は東京オリンピック（64年）のころから世界中を旅行していましたが、私としては高齢になつても行ける旅行サービスを、と考えたわけです。20年ほど前から旅行者も高齢化が進むことはわかっていましたから、身体が不自由になつても行ける企画を実現しようと思ひました」とのことだ。91年に独立・創業（一般労働者派遣事業認可取得、旅程管理者派遣）、95年にバリアフリー旅行の人材として、「トラベルヘルパー・トラベルマスター」の育成を開始。まず、人材育成から始め、96年に高齢者・身体障害者向け旅行取扱（第三種旅行業認可取得）、98年に高齢者の明るい暮らしを支えるネットワーク「あ・える倶楽部」を発足させた。06年に認知症予防教室を試行的にスタート。「ハワイ介護旅行」招待キャンペーンなども行なっている。

要介護老人ホーム事業者施設教養ランキングするあずみ苑の利用者や周辺地域の入居希望者などに介護相談や予防プログラムを体験（百寿教室や効果測定など）させている。

レオパレス21は、「人生を楽しむユニティ」づくりをシルバー事業のコンセプトとして提唱しており、同コンセプトの「通う・住む、出かける、ふれあう、学ぶ、つなぐ」のうち、「出かける」における旅行やイベント参加などに、あ・える倶楽部のノウハウを提供するという。「エビデンスによって裏付けられた介護予防・認知症予防の各種のサービスを現場で実践することで、職員はもとより入居者とその家族の満足度アップに旅行や学習を通して貢献することができると考えています」と、篠塚氏。

有料老人ホーム事業者以外にも、（株）ニアコミュニケーションなども連携し、新規事業分野開拓に積極的に取り組んでいる。要介護者だけではなく、全国の医療機関と提携して治療中の持病を抱えた人、病後のリハビリを受けている人、人工透析や酸素療法を受けている人——など、要医療者の「海外旅行に行きたい」ニーズにも対応しており、医療・介護双方からのあ・える倶楽部へのアプローチも活発化しているという。高齢社会の進展でますますニーズ拡大

さらに、07年には財団法人東京都老人総合研究所（当時、現・地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター）と提携し、「旅の認知症予防ツアー」を開発。その後は旅行者の高齢化という予測どおりの追い風に乗り、業容を拡大してきた。現在、取引先は全日空、JTB、クラブツーリズム、阪急交通社、近畿日本ツーリストなど、わが国を代表する大手旅行グループ各社に、ツアーコンダクター、トラベルヘルパー（外出支援専門員）等の人材派遣を行なっている。要介護高齢者や介護事業者を中心に介護旅行、介護予防、健康増進（ヘルスツーリズム）などの企画商品の販売なども行なっている。

ここで「トラベルヘルパー」という人材について説明すると、前述のとおりもともとは篠塚氏の造語であり、「介護の必要なお客様の旅（介護旅行）に同行し、移動や観光、宿泊先でケアサービスを提供させていただく専門スタッフのこと」と同社では定義している。看護師や介護ヘルパーなど、医療・介護の基本技術をも身につけていると同時に、旅行全般についても精通した専門的な人材、ということになる。

06年に内閣認証法人、「特定非営利活動法人日本トラベルヘルパー協会」（理事長・篠塚恭一氏）日本セラピー協会常任理事）を設立しており、「旅は最高のリハビリ」という言葉を実践し、トラベルヘ

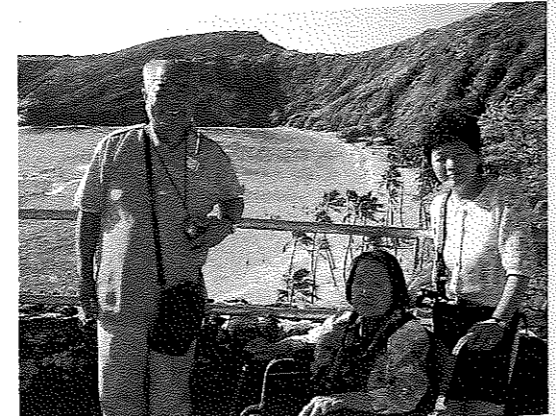
が見込まれるが、課題は人材育成だという。最後にあ・える倶楽部の会員数は現在約4000人、うち活動的なコア会員は約800人とのことだ。今後の活動ぶりに注目したい。

別表 SPIあ・える倶楽部の海外トラベルヘルパー利用料金 単位:円

顧客の状況	サービス内容	基本料	
		1日	1時間
軽度（自立～要支援程度）	見守り・荷物・動産管理	26,250	3,276
中度（要介護度1・2程度）	移動・食事・更衣・排泄	29,400	3,780
重度（要介護度3・4・5程度）	おむつ交換・入浴介助等	31,500	4,095
自立者の付き添い	見守り・荷物管理・話し相手	10,500	

\*基本業務時間は同行1日12時間（8:00～20:00）のうち、介護実務8時間以内、半日は実務4時間（8:00～20:00の連続時間）以内を基準とする。超過した場合は別途料金加算。  
\*時間単位での利用は、1日3時間以上の利用となる。  
\*自立者の利用は各資格を有しないスタッフの基本料金。有資格者希望の場合は、軽度者利用の場合の料金を適用。

会社概要	
社名	（株）エスピーアイ 商標 あ・える倶楽部（A・EL Club）
所在地	東京都渋谷区道玄坂1-19-13 トップヒル10階
資本金	1億円
代表者	代表取締役 篠塚恭一
事業内容	ツアーコンダクター・トラベルヘルパー等、一般・高齢者旅行人材の養成・派遣 介護旅行・介護予防、健康増進（ヘルスツーリズム） 保健福祉視察旅行の企画・開発 上記関連情報の発信、イベント企画、まちづくりのコンサルティングほか



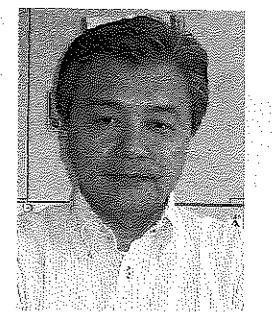
ハワイでくつろぐ、顧客とその家族



ハワイ、ダイヤモンドヘッドをバックにした顧客（92歳）



顧客の強い希望で実現した厳冬の稚内、作曲家・船村徹の歌碑の前でトラベルヘルパー（右）と



代表取締役 篠塚恭一氏